

第1回アルコール健康障害対策会議 相談支援・社会復帰・民間団体ワーキンググループ
「相談支援・社会復帰」
回復施設の現状と課題 今後求められる対策

特定非営利活動法人いちごの会

佐古恵利子(精神保健福祉士・臨床心理士)

わが国におけるアルコール問題への政策的取り組みの歴史

(清水新二)

時期	サービスの累積化	キーワード
昭和30～40年代	治安保護サービス 医療サービス	アル中 慢性酒精中毒
昭和50年代前半	保護・医療・保健サービス	アルコール依存症
昭和50年代後半～60年代	医療・保健・教育サービス	アルコール関連問題
平成年間	医療・保健・教育・福祉サービス	アルコール依存症者の社会復帰・ 地域生活支援

わが国のアルコール依存症治療の変遷

(佐古)

時期	サービスの累積	特徴
昭和30～40年代	隔離と収容が中心	回復の見込みがない
昭和50年代前半	医療・自助グループ・行政の三位一体 インフォームドコンセント・心理教育	回復が可能である 社会の誤解と偏見は変わらず
昭和50年代後半～60年代	地域医療への展開 治療導入からアフターケアまで一貫治療 デイケア	治療の広がり 女性・高齢者層の受診率増 施設から地域支援へ
平成年間	地域生活への展開(患者から生活者へ) 諸相との連携(高齢者・女性・貧困等) 回復施設 地域支援	トータルな回復・社会参加 新たなネットワーク 地域に根ざす回復文化

治療が長期化しているアルコール依存症者の実態の検証 (ASW関西支部1998年調査)

生活の崩壊過程からの脱出
新たな生活スタイルの獲得
に向けた
日常生活および社会生活へ
の支援の必要性

生活崩壊

断酒困難

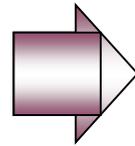
就労困難

アルコール依存症「発症前」「飲酒」「発症」「脱却」各期の状況、行動、感情
 ーリカバリハウスいちごメンバーグループインタビュー(2011年)

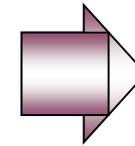
	発症前	飲酒	発症	脱却
状況	貧困 被虐待 喪失体験 アルコール家庭 家庭崩壊	酒と生活がひきあう	生活の悪循環の固定化 (生活障害)	飲まない環境 仲間や相談者がいる 生活が保障 多様な活動(仕事)がある 地域の人と関わる環境 平等な関係
行動	歪みをもった行動 早い自立	早い時期からの飲酒 酒に逃げることを覚える	飲酒優先の選択行動 対処が尽きる	治療・自助グループにつながる 生活リズムの獲得 回復を続ける 問題の整理 課題に取り組む 様々な経験をする(学び働き遊ぶ) 社会的役割を果たす
感情	生きていくのが苦しい	酒が楽にしてくれる経験	否定的 飲酒葛藤 人とは違う思い	病気の受容 肯定へ 根深い感情に向き合う アルコールを必要としない

回復にとって必要で重要な課題とは？

基本的欲求欠乏の経験
(生理・安全・社会)



劣等感や無力感が
生じる



劣等感や無力感
を解消する

自信をなくし、生き方が分からなくなっている人のためのエンパワメント型支援

ハーフメード方式

① 医療機関・行政機関・自助グループ・地域社会との仲介機能を持ち、② 依存症からの回復生活の基盤をつくる生活リズムを続け③ あらかじめ用意したプログラムに自分の考えたプログラムをミックスして取り組み④ 仲間とのチャレンジによって、生きていく自信を見出す方法



自分の活動の場を
持つ・保つ



多様なプログラムから
選ぶ・やるべきこと
をやる



生活のリズムを
つくる・保つ

個別援助・集団援助、地域援助を行う社会福祉機関としての回復施設(リハビリハウスいちご)

<p>○生活リズムをつくるプログラム 1日 1週間 1か月 1年単位の行事 飲まない生活リズムの確立</p>	<p>○地域に出て働く機会の提供 社会的役割を果たす 収入を得る 知識、技術、経験を蓄積する</p>	<p>○多様な活動機会の提供 心理教育的 娯楽 健康増進 啓発活動</p>
<p>○自助グループにつなげる 直接参加 自助グループとの連携</p>	<p>○必要な治療の継続につなげる 利用者の医療機関との連携 サービス提供者会議 運営委員</p>	<p>○人的ネットワークの促進 地域の人達との交流 仲間を得る 家族関係の改善</p>
<p>○民主的な運営 メンバーとスタッフで 話し合いで計画を決めていく 作業会議 全体会議等の運営</p>	<p>○個別援助 定期及び随時の面接 就労支援 家族援助</p>	<p>○グループワーク レクリエーション スポーツ 種々ミーティング グループ就労</p>

●沿革

- 1997(平成9)年 アルコール作業所設立準備会結成
- 1999(平成11)年 小規模作業所 開設
- 2001(平成13)年 グループホーム 開設
- 2002(平成14)年 特定非営利活動法人いちごの会 設立 グループホーム 4戸増
- 2003(平成15)年 長居小規模通所授産施設 開設
- 2004(平成16)年 矢田小規模通所授産施設へ移行
- 2005(平成17)年 居宅介護事業所 開設
- 2006(平成18)年 相談支援事業所 開始
- 2007(平成19)年 多機能型生活訓練・就労移行、地域活動支援センターA型へ移行、B型事業所開設「カフェ&レスト苺」営業認可
- 2008(平成20)年 「お弁当ハウスいちご」営業認可
- 2009(平成21)年 女性グループホームいちご 開設
- 2012(平成24)年 劇団いちご 結成
- 2013(平成25)年 生活訓練12名就労移行支援9名就労継続支援B型19名へ生活介護事業所開設 女性グループホームⅡ 開設
- 2014(平成26)年 グループホーム定員変更5住居25名
- 2015(平成27)年 リカバリハウスいちご尼崎 開設

就労機会の現状

- 老人ホームでの仕事
 - 食器洗浄業務(月～土)
 - クリーニング業務(週3日)
 - 物療補助業務(月～土)
 - ヘルパー補助業務(月～金)
 - 剪定除草(年2回)
 - 喫茶ボランティア(週1回)
 - 囲碁将棋ボランティア
- お弁当づくりと配達
 - 調理業務
 - 洗浄業務
 - 配達業務
 - 引き取り業務
- 便利屋業
- カフェ
 - 接客業務
 - 調理業務
 - 清掃業務
 - 買い出し業務
 - 箸袋づくり
- 福祉有償輸送業
- 剪定除草業務
 - 公営住宅
 - 庭手入れ
- 放置自転車防止啓発
 - 墓地清掃
 - 温泉清掃
 - 町内清掃ボランティア
- 製作所出向作業
- 自動販売機補充業務
- 室内共同作業
- おかしづくり
- 地域祭り出店
- さをり
- 手芸
- ヘルパー事業所ができました
- 実習 見学随時

利用者の状況 2015年4月 99名(女性22.2%)30代～70代

事業	登録	利用者	男性	女性	自助グループ 出席状況	
地域活動支援 センター	45名	38名	21名	12名	NA1名 AA15名 断酒会16名	
生活訓練	16名	12名	11名	1名	AA2名 断酒会9名	
就労移行	9名	8名	7名	1名	AA1名 断酒会8名	
就労継続B	36名	31名	28名	3名	GA1名 AA5名 断酒会20名	カフェ お弁当ハウス
生活介護	12名	10名	5名	5名	AA8名 断酒会1名	
グループホーム	25名	25名	16名	9名	GA2名 AA10名 断酒会12名	

効果 地域でふれ合うことで理解が進んだ

自助グループへの定着

不安の軽減

飲まない生活リズム

自己の理解

回復への努力

仲間ができたこと

生き難くしているものへの気づき

仕事ができる喜び

家族との統合

課題がみえた

安定した生活

収入を得る

自分との和解

多機関の医療機関との連携協力が進む

障害者自立支援協議会での交流

地域の人達への理解が進む

自助グループとの連携が密になる

高齢者支援者 女性支援者 障害者支援者

連携促進

～文集より～

今後求められる対策について

1. 社会福祉援助の展開（立ち後れている社会福祉資源整備）

①社会福祉資源の開拓～社会的適正数は？

（例）福祉圏域（人口30万人）？

②他の依存症への対応

2. 就労支援（やめていくことそのものは仕事ではない）

①本人の経験と自信を生み出す支援

②就労の機会の提供

- ・職場開拓（啓発活動と連動）
- ・初期支援（職場環境の調整）

③職場定着支援（アルコール依存症者の特性をふまえた支援）

- ・医療、自助グループとの継続的な関わり

- ・生活支援との連携

必要な福祉サービスの提供（グループホーム等）

- ・新たな相談支援

定期的な訪問、来所、危機介入など

3. 各地のネットワークの進展

- ・医療、自助グループ、保健、行政、に福祉事業所を加えた展開

（例）「飲酒と健康を考える会」

4. アルコール関連問題、生活困窮や家族問題で苦しんでいる子どもから大人までの相談支援体制

- ・家族、女性、高齢、子ども、生活困窮者らの相談支援

（例）アルコール健康障害相談センター

- ・医療機関、行政機関、福祉機関、自助グループの共同取組